

農業体験を通じた棚田保全と地域振興 (里山集落の活性化)

体験学習と教育機能

くるみ 胡桃 地区



胡桃地区の写真

胡桃地区では、昭和39年に発生した大規模な地すべりによって、ほとんどの農家が離村し市街地に居住しているが、現在でも村へ「通勤農業」することで地区の棚田を保全している。

保全された棚田では、農業体験の実施による都市農村交流や、医療に貢献する低タンパク米「春陽」の作付をとおして、地域社会の振興に寄与している。



富山県氷見市

〔体験学習と教育、医療・介護・福祉〕

(農)くるみ営農組合やJA氷見市が中心となり氷見高校の学生と一緒に、通常の米よりたんぱく質の吸収が少なく、糖尿病腎症など腎機能低下でたんぱく質等の摂取が制限される方に適しているとされる「春陽」を作付している。

この取り組みは、田植や稲刈り等の農業体験を通じて、地域住民に、中山間地域の棚田保全の重要性を理解してもらうとともに、交流による地域振興につながっている。



「春陽」の田植状況
(氷見高校)

〔洪水防止、土砂崩壊防止、土壌侵食防止、景観の保全など〕

富山県では、「棚田保全活動支援事業」として、上記集落の活性化を図る取組や棚田が有する多面的機能の保全に対し支援を実施している。

(平成22年度～24年度)



「春陽」の稲刈り、はさがけ状況
(氷見高校)



「春陽」を利用した純米吟醸酒の仕込み体験